



H317 - アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
 H330 - 吸入すると生命に危険  
 H334 - 吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ  
 H340 - 遺伝性疾患のおそれ  
 H350 - 発がんのおそれ  
 H360 - 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
 H370 - 臓器の障害  
 H372 - 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害  
 H410 - 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

## 以下の臓器の障害:

H370 - 以下の臓器の障害: 血液系, 心臓血管系, 中枢神経系, 腎臓, 肝臓, 呼吸器系。  
 H372 - 長期にわたる、又は反復ばく露による以下の臓器の障害: 呼吸器系。

## 注意書き

P201 - 使用前に取扱説明書を入手すること  
 P202 - 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと  
 P210 - 熱から遠ざけること  
 P220 - 衣類/可燃物から遠ざけること  
 P221 - 可燃物と混合を回避するために予防策をとること  
 P260 - 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと  
 P261 - 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること  
 P262 - 眼、皮膚、衣類につけないこと  
 P264 - 取扱後は顔、手、露出した皮膚をよく洗うこと  
 P270 - この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと  
 P271 - 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること  
 P272 - 汚染された作業衣は作業場から出さないこと  
 P273 - 環境への放出を避けること  
 P280 - 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を使用すること  
 P281 - 指定された個人保護具を使用すること  
 P284 - 呼吸用保護具を着用すること  
 P285 - 換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること  
 P301 + P310 - 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること  
 P301 + P330 + P331 - 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと  
 P302 + P352 - 皮膚に付着した場合: 多量の水と石けん(鹸)で洗うこと  
 P303 + P361 + P353 - 皮膚(又は髪)に付着した場合: 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと  
 P304 + P340 - 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること  
 P304 + P341 - 吸入した場合: 呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること  
 P305 + P351 + P338 - 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること  
 P308 + P311 - ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること  
 P308 + P313 - ばく露又はばく露の懸念のある場合: 医師の診断/手当てを受けること  
 P310 - 直ちに医師に連絡すること  
 P314 - 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること  
 P320 - 特別な処置が緊急に必要である  
 P321 - 特別な処置が必要である  
 P322 - 特別な処置が必要である(このラベルの応急措置についての補足指示を見よ)  
 P330 - 口をすすぐこと  
 P333 + P313 - 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること  
 P342 + P311 - 呼吸に関する症状が出た場合: 医師に連絡すること  
 P361 - 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと  
 P363 - 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること  
 P370 + P378 - 火災の場合: 消火するために乾燥した砂、粉末消火剤又は耐アルコール泡消火剤を使用すること  
 P391 - 漏出物を回収すること  
 P403 + P233 - 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと  
 P405 - 施錠して保管すること  
 P501 - 内容物/容器を承認を受けた廃棄物処理施設に廃棄すること

## その他の情報

他に分類できない危険有害性(HNOC) 該当せず

## 3. 組成及び成分情報

## 化学物質・混合物の区別 混合物

化学物質名	濃度又は濃度範囲 [%]	化審法番号	安衛法番号	CAS番号
無水クロム酸	98.7	(1)-284	Present (From ENCS)	1333-82-0
フッ素化合物	1.3	Listed	Listed	-

## 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

規制区分	法文物質名称	金属名	含有率
第1種指定化学物質、特定第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1、施行令第4条)	六価クロム化合物	クロムとして	51

## 労働安全衛生法

規制区分	法文物質名称	政令番号	含有率
名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)	クロム及びその化合物	142	>=90
名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)	クロム及びその化合物	142	1 - 10
名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)	弗素及びその水溶性無機化合物	487	1 - 10
名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)	クロム及びその化合物	142	>=99.9
名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)	弗素及びその水溶性無機化合物	487	1 - 10

## 毒物及び劇物取締法

規制区分	法文物質名称
劇物(指定令第2条)	無水クロム酸

## 4. 応急措置

吸入	呼吸が停止している場合には、人工呼吸を行うこと。直ちに医師の手当てを受けること。空気の新鮮な場所に移すこと。粉じんを吸入しないこと。被災者がその物質を経口摂取または吸入した場合には口移し法は使わず、一方向弁を備えたポケットマスクまたはその他の適切な呼吸医療装置を使用して人工呼吸を行うこと。呼吸が困難な場合には、(資格のある者が)酸素吸入を行うこと。遅発性の肺水腫が生じるおそれがある。直ちに医師の診断/手当てを受けること。アレルギー性呼吸器反応を起こすおそれ。皮膚に直接触れないようにすること。口対口の人工呼吸を行う際はバリアを使用すること。
皮膚接触	衣服に付着した場合: 直ちに汚染された衣類および皮膚を多量の水で洗い流してから衣類を脱ぐ。皮膚に付着した場合: 多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。直ちに医師の診断/手当てを受けること。アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
眼との接触	少なくとも15分間、まぶたの裏側まで多量の水で洗うこと。洗っている間、目を大きく開くこと。受傷部をこすってはならない。直ちに医師の診断/手当てを受けること。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
経口	無理に吐かせないこと。水で口内をすすいだ後、多量の水を飲むこと。意識のない者には、何も口から与えてはならない。直ちに医師の診断/手当てを受けること。アレルギー性反応を起こすおそれ。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	咳および/または喘鳴。呼吸困難。灼熱感。吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ。掻痒感。発疹。じんま疹。
応急措置をする者の保護	医療者が物質の関与を認識していることを確認し、彼ら自身の保護および汚染の拡大を防止するために措置を講ずること。指定された個人保護具を使用すること。詳細はセクション8を参照。個人保護服を着用すること(セクション8を参照)。粉じんを吸入しないこと。被災者がその物質を経口摂取または吸入した場合には口移し法は使わず、一方向弁を備えたポケットマスクまたはその他の適切な呼吸医療装置を使用して人工呼吸を行うこと。皮膚、眼または衣類との接触を避けること。

## 医師に対する特別な注意事項

この製品は腐蝕性物質である。胃洗浄、嘔吐(無理に吐かせること)はしてはいけない。胃穿孔または食道に穿孔がないか調べる。化学的解毒薬を与えないこと。声門の浮腫により窒息が生じるおそれがある。湿性ラ音、泡状の痰および高い脈拍圧を伴う血圧の著しい低下が発生する可能性がある。敏感な個人に感作を引き起こすことがある。症状に応じて治療すること。

## 5. 火災時の措置

## 消火剤

水を使用すること。粉末消火剤を使用してはならない。CO<sub>2</sub>またはハロンの効果は限定的である。離れた場所から火災区域を水浸しにすること。リスクを伴わずに行えるのであれば、容器を火災区域から移動させること。火が消えた後、十分な時間がたつまで容器を大量の流水で冷却すること。

## 使ってはならない消火剤

粉末消火剤。泡消火剤。警告：消火の効果が得られない場合には水スプレーを使用すること。

## 特有の危険有害性

これらの物質は火災に巻き込まれると火勢を助長する。加熱されたり火災に巻き込まれたりすると爆発的に分解するものもある。可燃物(木材、紙、油、衣類など)に点火することがある。去流水は火災危険有害性または爆発危険有害性を生じることがある。本製品は眼、皮膚、および粘膜の薬傷を引き起こす。熱分解すると刺激性のガスおよび蒸気を放出することがある。製品は感作性物質であるか、感作性物質を含む。吸入および皮膚接触により感作を引き起こすことがある。皮膚接触により感作を引き起こすことがある。

## 特有の消火方法

利用可能な情報は無い。

## 消火を行う者の保護

消火を行う者は自給式呼吸器および消火活動用の装備を着用しなければならない。個人用保護具を使用すること。荷物が火にさらされていた場合、貨物または車両を移動させてはならない。酸化剤、可燃物(木材、紙、油、衣類など)に点火することがある。リスクを伴わずに行えるのであれば、容器を火災区域から移動させること。最大距離から消火を行うか、無人ホースホルダまたはモニタ付ノズルを使用すること。炎に包まれたタンクからは、常に離れていなければならない。大火災に対しては無人ホースホルダまたはモニタ付ノズルを使用すること。これが不可能な場合には、区域から退避して火が燃えるにまかせる。

## 6. 漏出時の措置

## 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

十分換気されているか確認すること。皮膚、眼または衣類との接触を避けること。人員を安全な区域に避難させること。人員を漏出/流出物から遠ざけ、風上に退避させること。全ての点火源を排除すること(近接区域では禁煙とし、裸火、火花または火炎を排除する)。適切な保護衣を着用している場合を除き、損傷した容器や漏出物には触らないこと。詳細はセクション8を参照。リスクを伴わずに可能なら、漏出を止めること。指定された個人保護具を使用すること。粉塵の発生を避けること。粉じんを吸入しないこと。注意！腐食性物質。

## 環境に対する注意事項

水路、下水道、地下室または締めきった場所への侵入を防止すること。地上水または下水施設に流さないこと。安全に行えるなら、それ以上の漏出または漏洩を防ぐこと。製品が排水路に入らないようにすること。環境中に放出しないこと。表土/下層土に侵入させないようにすること。

## 封じ込め及び浄化の方法及び機材

リスクを伴わずに可能なら、漏出を止めること。乾燥した土、乾燥した砂またはその他の不燃性物質で覆い、さらにプラスチックシートで覆って散乱したり雨に触れるのを最小限にすること。

清潔なシャベルを用いて物質を清潔で乾燥した容器に回収して密閉する。漏出区域から容器を移動させること。区域を多量の水で洗い流すこと。製品が排水路に入らないようにすること。粉末状の漏出物をプラスチックシートまたは防水シートで覆い、拡散を最小限にすると共に粉末を乾燥状態に維持する。

## その他の情報

可燃物(木材、紙、油など)を漏出物から遠ざけておくこと。水が容器の中に入らないようにすること。その区域を換気すること。項目7および8に記載の保護措置を参照のこと。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

## 技術的対策

特に閉め切った場所では十分な換気を確保すること。

## 安全取扱注意事項

個人用保護具を使用すること。皮膚、眼または衣類との接触を避けること。熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。汚染された衣類および靴を脱ぐこと。産業衛生および安全対策規範に従って取り扱うこと。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。粉じんを吸入しないこと。粉塵の発生を避けること。換気が不十分な場合、適切な呼吸保護具を着用する。製品の取り扱いを閉鎖系内に限定するか適切な排気式換気を設けること。放出が発生する場所には排気換気を設けること。

## 接触回避

利用可能な情報はない。

## 保管

## 安全な保管条件

容器を密閉して乾燥した涼しく換気の良い場所に保管すること。適切な表示のある容器に保管すること。可燃性物質の近くには保管してはならない。個別の国内規制に従って保管すること。現地の規則に従って保管すること。子供の手の届かない場所に保管する。施錠して保管すること。湿気を遮断すること。他の物質から離して保管すること。

## 安全な容器包装材料

利用可能な情報はない。

## 8. ばく露防止及び保護措置

化学物質名	日本産業衛生学会	安衛法 - 管理濃度	ACGIH 許容濃度、暴露限界
無水クロム酸 1333-82-0	TWA: 0.05 mg/m <sup>3</sup> TWA: 0.01 mg/m <sup>3</sup> ISHL/ACL: 0.05 mg/m <sup>3</sup>	ISHL/ACL: 0.05 mg/m <sup>3</sup>	TWA: 0.05 mg/m <sup>3</sup> Cr
フッ素化合物	TWA: 0.5 mg/m <sup>3</sup>	-	TWA: 2.5 mg/m <sup>3</sup> F TWA: 0.5 mg/m <sup>3</sup> Cr

## 設備対策

技術的手段を使用して職業暴露限界値を遵守すること。洗眼台および安全シャワーが必ず作業場所の近くにあることを確認すること。

## 保護具

## 呼吸用保護具

労働者が暴露限界値を超える濃度にさらされる場合には、認証を受けた適切な呼吸用保護具を必ず使用しなければならない。

## 手の保護具

適切な手袋を着用する。不浸透性手袋。

## 眼の保護具

顔面保護シールド。

## 皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用する。長袖の衣類。耐薬品性エプロン。防火服／防災服／耐火服を着用すること。不浸透性衣類。

## 衛生対策

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。汚染された衣類および手袋は脱ぎ、再使用する前に内側を含めて洗濯すること。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。機器、作業区域および衣類を定期的にクリーニングすることが推奨される。休憩前および製品の取扱い直後に手を洗うこと。皮膚、眼または衣類との接触を避けること。適切な手袋および眼/顔面保護具を着用する。粉じんを吸入しないこと。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

## 9. 物理的及び化学的性質

## 物理的状態

## 外観

## 固体

## 臭い

## 結晶

## 色

利用可能な情報はない

## 臭いのしきい値

## 赤褐色

利用可能な情報はない

## pH

利用可能な情報はない

## pH(水溶液として)

## 融点/凝固点

利用可能な情報はない

## 沸点/沸点範囲

利用可能な情報はない

## 引火点

利用可能な情報はない

## 蒸発速度

利用可能な情報はない

## 燃焼性(固体、気体)

利用可能な情報はない

## 空気中での可燃限界

## 燃焼上限:

利用可能な情報はない

爆発下限:	利用可能な情報はない
蒸気圧	利用可能な情報はない
蒸気密度	利用可能な情報はない
比重 / 密度	1.30
水への溶解度	利用可能な情報はない
溶解性	水に可溶 (25 °C)
オクタノール/水分配係数	利用可能な情報はない
Autoignition temperature	利用可能な情報はない
分解温度	利用可能な情報はない
動粘性率	利用可能な情報はない
動的粘度	利用可能な情報はない
その他の情報	
軟化点	利用可能な情報はない
分子量	利用可能な情報はない
VOC含有率 (%)	利用可能な情報はない
蒸気濃度	利用可能な情報はない
かさ密度	利用可能な情報はない

## 10. 安定性及び反応性

反応性	利用可能な情報はない。
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱において安定と考えられる。
危険有害反応可能性	還元剤、強塩基と反応する。
避けるべき条件	高温。湿気。
湿触危険物質	還元剤。有機物。強塩基。
危険有害な分解生成物	利用可能な情報はない。
その他の情報	潮解性あり

## 11. 有害性情報

急性毒性	
製品情報	
ATEmix(経口)	81.00 mg/kg
ATEmix(皮膚)	58.00 mg/kg
ATEmix(吸入-ガス)	利用可能な情報はない
ATEmix(吸入-粉塵/ミスト)	0.05 mg/l
ATEmix(吸入-蒸気)	利用可能な情報はない

### 成分情報

化学物質名	経口LD50	経皮LD50	吸入 LC50
無水クロム酸	= 80 mg/kg ( Rat )	= 57 mg/kg ( Rabbit )	= 0.217 mg/L ( Rat ) 4 h

皮膚腐食性及び皮膚刺激性	皮膚刺激のおそれ
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	成分に対して利用可能なデータに基づく分類 火傷を引き起こす 眼に重度の傷害を与えるリスクがある
感作性	利用可能な情報はない
呼吸器感作性または皮膚感作性	吸入により感作を引き起こすことがある 皮膚接触により感作を引き起こすことがある
生殖細胞変異原性	利用可能な情報はない

発がん性	
製品情報	成分に対して利用可能なデータに基づく分類。既知、または疑いのある発がん性成分を含む。

### 成分情報

化学物質名	日本産業衛生学会	IARC
無水クロム酸 1333-82-0	1A	Group 1
フッ素化合物		Group 3

生殖毒性	成分に対して利用可能なデータに基づく分類 生殖毒素であることが知られている、または生殖毒素であることが疑われる物質を含んでいる 下表は、関連事項と考えられるカットオフ値を超えて存在する、生殖毒性として記載されている成分を示す
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	国または地域で採用され、安全データシートが準拠している世界調和システム(GHS)の分類基準に基づき、この製品は急性の暴露に起因して全身標的臓器毒性を引き起こすと判定されている。(STOT SE) 飲み込むと臓器の障害 皮膚に接触すると臓器の障害 臓器の障害
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害
吸引性呼吸器有害性	利用可能な情報はない

## 12. 環境影響情報

生態毒性  
製品情報  
成分情報

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

化学物質名	藻/水生植物	魚類	甲殻類
無水クロム酸	-	40: 96 h Colisa fasciatus mg/L LC50 static	-

残留性・分解性	データなし
生体蓄積性 製品情報	利用可能な情報はない
成分情報	利用可能な情報はない
土壌中の移動性	利用可能な情報はない
オゾン層への有害性	利用可能な情報はない
その他の有害影響	利用可能な情報はない

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	環境中に放出しないこと。現地の規則に従って廃棄すること。環境法律に従って廃棄物を廃棄すること。
汚染容器及び包装	国、都道府県、および市町村の規制に従って廃棄すること。廃棄物は、承認を受けた廃棄物処理場で廃棄すること。

## 14. 輸送上の注意

### IMDG

UN/ID番号	UN1463
正式輸送品目名	三酸化クロム(無水物)
危険有害性クラス	5.1
補助的な危険有害性クラス	6.1 8
容器等級	II
EmS - No	F-A, S-Q
海洋汚染物質	該当

### ICAO(空輸)

UN/ID番号	UN1463
正式輸送品目名	三酸化クロム(無水物)
危険有害性クラス	5.1

補助的な危険有害性クラス 6.1 8  
容器等級 II

**ADR**

UN/ID番号 UN1463  
正式輸送品目名 三酸化クロム(無水物)  
危険有害性クラス 5.1  
ラベル 5.1 + 6.1 + 8  
容器等級 II  
ERGコード 5CP  
環境危険有害性 該当  
特別条項 510

**IATA**

UN/ID番号 UN1463  
正式輸送品目名 三酸化クロム(無水物)  
危険有害性クラス 5.1  
補助的な危険有害性クラス 6.1 8  
容器等級 II

**国内規制**

UN番号 UN1463  
正式輸送品目名 三酸化クロム(無水物)  
危険有害性クラス 5.1  
補助的な危険有害性クラス 6.1 8  
容器等級 II

緊急時対応指針番号 141

**15. 適用法令**

化審法	優先評価化学物質(法第2条第5項)
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9) 特定化学物質第2類物質、管理第2類物質(特定化学物質障害予防規則第2条第1項第2、5号) 作業環境評価基準(法第65条の2第1項) 特定化学物質特別管理物質(特定化学物質障害予防規則第38条3)
毒物及び劇物取締法	劇物(指定令第2条)
化学物質排出把握管理促進法	第1種指定化学物質、特定第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1、施行令第4条)
消防法	第1類酸化性固体、クロム、鉛またはよう素の酸化物(法第2条第7項、危険物令第1条第1項) 貯蔵等の届出を要する物質(法第9条の3・危険物令第1条の10六別表2-18・平元省令2号第2条)
大気汚染防止法	有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(中央環境審議会第9次答申) 有害大気汚染物質、優先取組物質(中央環境審議会第9次答申)
水質汚濁防止法	有害物質(法第2条、施行令第2条、排水基準を定める省令第1条)
土壤汚染対策法	特定有害物質(法第2条第1項、施行令第1条)
航空法	酸化性物質類・酸化性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
船舶安全法	酸化性物質類・酸化性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)
廃棄物処理法	特別管理産業廃棄物(法第2条第5項、施行令第2条の4)
労働基準法	疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1)



---

がん原性化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第7号)

外国為替及び外国貿易法

輸出貿易管理令別表第1の16の項

<b>16. その他の情報</b>
-------------------

改訂日 2017-11-21

改訂記録 利用可能な情報はない。

**主要参照文献とデータの出典**

ACGIH - Threshold Limit Values

U.S. - OSHA - Final PELs

Japan - Recommended Exposure Limits

Japan - ISHL Working Environment Evaluation Standards - Administrative Control Levels

IARC

**免責事項**

このSDSは、JIS Z 7253:2012(日本)の要件に準拠している。この安全データシートに記載されている情報は、その発行日の時点において、我々の知識、情報および信念のおよぶ限りにおいて正確なものです。ここに提示されている情報は、安全取扱、使用、加工処理、保管、運搬、廃棄、および放出の指針とすることのみを目的としたものであり、保証または品質仕様と考えるべきものではありません。この情報は、指定された特定の物質にのみ関連するものであり、本文中に明記されている場合を除き、他の何らかの材料と併用した場合、または何らかのプロセスに使用した場合には、有効でなくなる場合があります。

## 安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

会社	アイカ工業株式会社		
住所	愛知県あま市上萱津深見24番地		
担当部門	化成品カンパニー 品質管理グループ		
電話番号	052-443-4811	FAX番号	052-443-4825
緊急連絡先	担当部門に同じ		
整理番号:	DA-0155-10	改訂日	2014年 6月 25日
		作成日	2000年 2月 22日

製品名 アイカアイボン A-344K  
(化学名, 商品名)

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類:	
引火性液体	区分外
急性毒性(経口)	区分外
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	区分外
生殖毒性	区分外

※上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

## ラベル要素:

・絵表示 なし

・注意喚起語 非該当

・危険有害性情報

・注意事項 (GHS対応表記)

※製品ラベルの有害性情報は製品群毎に共通の内容としていますので、個別の製品安全データシートの記載内容と異なる場合があります。

## 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別: 混合物  
化学名: 酢酸ビニル樹脂エマルジョン系接着剤

成分及び含有量:

成分名	含有率 (%)	CAS No.	化審法
酢酸ビニル樹脂等	51~55	9003-20-7	既存
水	45~49	7732-18-5	既存
酢酸ビニル	0.3以下	108-05-4	既存

厚生労働省指定13物質を使用していません。

## 4. 応急措置

目に入った場合:	・清浄な水で15分間以上洗眼し、眼科医の診断を受ける。
皮膚に付着した場合:	・付着した衣服、靴を脱ぎ、付着した部分を水または微温湯を流しながら、洗浄する。
吸入した場合:	・空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努め、医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合:	・水で口の中をよく洗い、直ちに医師の診断を受ける。無理に吐き出させないようにする。

## 5. 火災時の措置

特有の危険有害性:	・このもの自体には可燃性はないが、水分が蒸発した後の乾燥物は可燃性である。
消火方法:	・火元の燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。延焼の恐れのないよう水スプレーで周辺を冷却する。消火作業は風上から行う。 ・保護衣を着用するほか、状況によっては、不浸透性手袋、有機ガス用防毒マスク等の保護具を着用する。

消火剤： 水 [○]，二酸化炭素 [○]，泡 [○]，粉末 [○]，乾燥砂 [○] その他（強化液）

使ってはならない  
消化剤： 特になし

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具および緊急措置： ・作業の際には長靴、手袋、保護眼鏡などの保護具を着用する。

環境に対する注意事項： ・流路を毛布、土嚢等を用いてせき止め、多量流出の場合はバキューム等で汲み上げる。少量流出の場合はおがくず、土砂、パーライト等を混ぜ、モルタル状にして凝固回収する。  
・多量に河川、湖沼へ流出した場合は、必要に応じ都道府県市町村の公害関連部署等に直ちに連絡を取る。

回収、中和： ・少量の場合は、紙や布でふき取り焼却する。多量の場合は、火花の出ないシャベル等で密閉できる容器にすくい取り、焼却する。

### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い： ・取扱いは、換気の良い場所で行う。  
・目、皮膚への接触を防止するため、状況に応じ保護眼鏡、保護手袋などの保護具を着用する。

保管： ・容器は破損、腐食、割れ等のないものを使用する。  
・凍結、直射日光を避け、屋内で保管すること。  
・保管時の温度は、5℃以下あるいは35℃以上とならないようにする。  
・皮張り防止のため、使用後は密封して貯蔵する。

### 8. 暴露防止及び保護措置

暴露濃度基準：

成分名	管理濃度
酢酸ビニル	10ppm

設備対策： ・蒸気、ミストが発生する場合には、局所排気装置などの排気のための装置を設置する。

保護具： 呼吸用保護具： 必要ならば、有機ガス用防毒マスクを着用する。  
保護眼鏡： 必要ならば、保護眼鏡を着用する。  
保護手袋： 必要ならば、PE、ゴム製等の非浸透性の手袋を着用する。  
保護衣： 必要ならば、長袖作業衣等を着用する。

### 9. 物理的及び化学的性質

外観： 白色液体  
臭い： わずかにあり  
pH： 4  
融点： 約0℃（水として）  
初留点と沸点範囲： 約100℃  
引火点： 該当しない  
蒸発速度： データなし  
引火または爆発範囲の上限/下限： なし  
揮発性： データなし  
蒸気圧： データなし  
蒸気密度： データなし  
密度： 約1.1×10<sup>3</sup>kg/m<sup>3</sup>（23℃）  
溶解性： 水と任意の割合で混合可能  
オクタノール/水分配係数： 知見なし  
発火点： データなし  
分解温度： データなし

### 10. 安定性及び反応性

安定性： 通常の実取扱い条件では安定。  
危険有害反応可能性： 反応性はない。  
避けるべき条件： なし

混触危険物質： なし  
危険有害な分解生成物： 知見なし

## 11. 有害性情報

刺激性（皮膚，眼）： ・皮膚に付着したままにすると、炎症をおこす場合がある。  
・蒸気を吸引すると、頭痛をおこす場合がある。

急性毒性：

成分名	LD50(mg/kg)	生物種
酢酸ビニル	2900	ラット

## 12. 環境影響情報

移動性： 知見なし  
他の有害影響： 河川等に流出した場合には、エマルジョン中の樹脂の粘着による呼吸困難のため、魚類が死亡する場合がある。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物： ・「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の分類では、「廃油と廃プラスチック類の混合物」で、焼却する場合は、焼却設備を用いて少量ずつ焼却する。  
・産業廃棄物として処理する場合は、許可を受けた処理業者に委託する。  
・洗浄水等の廃水は凝集沈殿、活性汚泥等の処理により清浄にしてから排出する。  
・水質汚濁防止法に留意すること。

汚染容器・包装： 内容物を完全に除いた後処分する。処理は法規の規定に従って行う。

## 14. 輸送上の注意

国連分類： 非該当 国連番号： 非該当  
・運搬に際しては容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

## 15. 適用法令

消防法： 非該当  
毒物劇物取締法： 非該当  
労働安全衛生法： [表示対象物質] 非該当  
[通知対象物質] 酢酸ビニル  
P R T R法： [第1種指定化学物質] 非該当  
[第2種指定化学物質] 非該当

## 16. その他の情報

J I S K 6 8 0 4 (酢酸ビニル樹脂エマルジョン木材接着剤) 認定品  
ホルムアルデヒド放散による区分 F☆☆☆☆

4 VOC放散速度基準：  
日本接着剤工業会自主管理規定 J A I A - 4 0 1 8 4 0 4 VOC基準適合

記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては情報提供であり、いかなる保証もなすものではありません。また、記載事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。

引用文献：

- |                       |              |
|-----------------------|--------------|
| ・ 14102の化学商品          | 化学工業日報社      |
| ・ 化学物質の危険，有害便覧        | 中央労働災害防止協会   |
| ・ 知っておきたい職場の化学物質      | 中央労働災害防止協会   |
| ・ 製品安全データシートの作成指針     | 日本化学工業協会     |
| ・ 合成樹脂エマルジョンの輸送事故対策指針 | 日本エマルジョン工業会編 |